

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	24-321	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
A Narrative Review of Alcohol Prevention Interventions Among Older Adults 肝疾患におけるビリルビンの多面的な役割：文献レビュー		
執筆者		
Alexis Kuerbis ¹ , Silke Behrendt ^{2,3} , Alex Elswick ⁴ , Amy F Kostelic ⁴ , Simone Schultz ⁵		
掲載誌		
J Clin Transl Hepatol 2024 Nov 28;12(11):939-948. doi: 10.14218		
キーワード	PMID	
急性増悪型慢性肝不全、ビリルビン、慢性肝不全、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD)	39544246	
要 旨		
<p>ビリルビンは、ヘモグロビンをはじめとするヘムタンパク質の主要な分解産物であり、肝疾患の診断、予後、経過観察において重要な役割を果たす。急性肝不全、薬物性肝障害、ウイルス性肝炎などの急性肝疾患においては、ビリルビンは肝細胞の喪失と肝損傷の程度を反映するバイオマーカーとして機能する。アルコール関連肝疾患、慢性C型肝炎ウイルス感染、代謝機能障害関連脂肪肝疾患、自己免疫性肝疾患などの慢性肝疾患は、持続的な肝障害と炎症を特徴とする。慢性肝疾患におけるビリルビン値は、肝機能、疾患の重症度、予後に関する知見を提供する。多機能なバイオマーカーとして、ビリルビンは肝疾患の病態生理に関する貴重な情報を提供し、肝疾患およびその合併症の治療に関する臨床的意思決定の指針となる。本総説は、肝損傷のバイオマーカーとしての役割を超えた生物学的機能を分析することにより、肝疾患におけるビリルビンの多機能的な役割を探求することを目的とした。</p>		